

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員の希望者全員の正社員化を。

めざせ、均等待遇。

なくそう差別！

ユニオンは労働法裁判に勝利するぞ！

# 祝！ 第89回メーデー！ 労働者が安心して働ける職場 非正規労働者の復権をめざして

## 未来



全労協・郵政産業労働者  
ユニオン長崎中野支部  
機関紙・「みらい」  
NO. 3850  
18年5月1日(火)  
・Fax 095-828-1953

おはようございます。

今日は第八九回メーデーです。勤務の都合がつく方はみんなで参加しましょう。九時から五島町公園で地区労のメーデー集会があり、そのあと、出島までデモ行進をして、十時半から地区メーデーに参加します。

一方で、県労連メーデーも九時五十分から市民会館前で集会があり、そのあと湊公園までデモがあります。郵政ユニオンはこの両方に参加し、そのあと、十二時から例年通りに、水辺の森公園で懇親会を持ちます。どうかご参加ください。



メーデーの起源は、いまから百二十八年前の一八九〇（明治二十三）年五月一日に国際的な労働者の連帯と団結をめざして開かれたのが最初です。日本はまだ労働組合もなく、それから遅れること三〇年の一九二〇（大正九）年の五月二日に、東京・上野公園に二四団体の一万人が参加したのが最初です。

メーデーの統一要求は一日の八時間労働でした。そのころの労働時間は日の出から日没までの一日十二時間が当たり前でした。これから労働者が人間らしい生活をするために、この要求を出して、たたかいはじめます。



第一回メーデーは、労働者の国際組織の第二インターナショナルのパリ会議の呼びかけで始まりました。その決議では「すべての国で、辛い仕事をしている勤労大衆が、国に対して労働時間を八時間にせよと要求し、各国の労働者は五月一日に、このデモンストレーションを組織せよ」としています。

このインターナショナルを結成したマルクスは、この労働者の第一回目のメーデーを見ることなく、亡くなっていました。その結成宣言であり「共産党宣言」のドイツ語序文を書いたエンゲルスは、この第一回目のメーデーの日に、マルクスを偲んでこう書いています。  
「インターナショナルで作られた万国の労働者の永遠の

同盟は今もなお生きている。今日（メーデー）こそは、なによりもその証拠である。なぜなら私がこの文章を書いている今日、世界の労働者が、一つの旗のもとに、初めて動員される光景は、万国の労働者が、今日、実際に団結していることを、すべての国の資本家に知らせるであろう。ああ、マルクスが、私たちともにあつて、これを自分の目で見る事ができたなら！」と書いています。

こうして始まったメーデーは、労働者の国際的な団結と連帯のたたかひの約束の日です。要求の原点は、働く人の人間らしい生活と社会づくりです。八時間労働の要求は、資本家と労働者の働き方を、世界的に一つのルールとするように求めたものです。



しかし世界の資本主義国家は現在、新自由主義のむき出しの市場原理に支配された、まさに強欲資本主義です。先月、NHKテレビで、「欲望の経済史」と題した暴走する資本主義のドキュメンタリーが放送されていました。そこでは、世界の資産上位の七人の

額が、世界人口の半分（三十二億人）の人と同額で、異様な格差と貧困の社会だと指摘していました。これが現代社会の諸矛盾の根源です。ということは、世界は、百一十八年前に始まったメーデーの基本要求「人らしく」という課題を、今なお解決できていないことを意味します。



今年の五月五日はマルクス生誕一〇〇年目です。一八八八年に生まれたマルクスはその革命思想で、いくつもの国から国外追放を受け、無国籍のままイギリスで死去しますが、その彼が作った労働者の国際連帯組織（インターナショナル）で、その結成宣言文である「共産党宣言」に、「万国の労働者よ、団結せよ」と書き、世界に労働者のたたかひを呼びかけました。

わたしたちはこの歴史的なマルクス生誕一〇〇年目のメーデーに、あらためて、現代社会の最大の矛盾「貧困と格差をなくすために、非正規労働者の復権を掲げ、たたかうメーデーとします。第八九回メーデー万歳！

期間雇用パート労働者の皆さん！ 困りごとは職場の郵政ユニオンへご相談を。

1 集-山本, 2 集-向井, 3 集-山田, 郵便-高田, ゆうちよ銀-上筋, 他支部・分会の役員へ。